

# 栽培の省力化に向けた短節間性カボチャ品種

多収で果実品質が良く、大規模栽培にも適した、栽培の省力化が図られる短節間性カボチャ品種

## 研究開発の背景

- ・カボチャは栽培管理に比較的手間のかからない作物であるが、大規模栽培では整枝、誘引、収穫作業の労力負担が大きい。
- ・生産者の高齢化、労力不足、大規模化などの面から一層の栽培の省力化、労働生産性の向上が強く望まれている。

## 研究成果の内容

### 果実品質が高く、栽培の省力・軽作業化を実現する品種

- ・生育初期は節間が詰まる短節間性を示し、側枝数が少ない。摘心、整枝、誘引は不要。
- ・果実が株もと近くに着くため、収穫が容易。
- ・「TC2A」(商品名:ほっとけ栗たん)は、高粉質・高糖度で、ホクホクと良食感・良食味の品種。外観は尻が凸となる特徴がある。
- ・「ジェジェJ」は、高粉質・高糖度で、貯蔵後も高品質を維持する端境期向け品種。
- ・「くりひかり」は、粉質から粘質との中間で、ペーストや茹でなどの加工・業務用に適した品種。皮の色が黒緑で光沢がある。

**\*栽培上の留意点**  
葉が枯れ上がりしやすいので、果実の日焼けに注意する。



「TC2A」



「ジェジェJ」



「くりひかり」

短節間性カボチャ品種(株式会社渡辺採種場との共同育成)



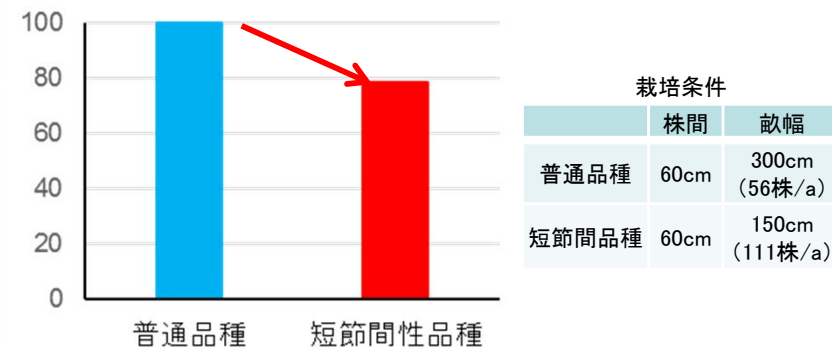
短節間性品種 普通品種  
短節間性品種と普通品種の植物体

導入メリット

### 単収の向上、省力栽培、一斉収穫が可能

- ・普通品種の半分程度の畝幅で栽培が可能。
- ・親づる1本仕立てにより着果時期が揃うため、品質が安定し、一斉収穫が可能。
- ・定植後は、手をかけない放任栽培が可能。

### 定植後の作業時間が約2割削減



短節間性品種「TC2A」、普通品種「えびす」を用いて、定植後の作業(摘心、整枝、誘引、収穫の合計)を100として比較。  
\*情報:2009年、2010年の(公財)道央農業振興公社調査データより

## 期待される効果

- ・作付面積の規模拡大、経営改善に寄与。
- ・消費者ニーズ、国産カボチャの周年供給、加工・業務用の需要に貢献。

開発機関: 農研機構北海道農業研究センター、株式会社渡辺採種場、予算区分【委託プロジェクト研究、競争的資金】

導入をオススメする対象  
全国のカボチャ生産者、規模拡大を目指す地域